

平成 30 年度研究推進計画

学校名 海田町立海田東小学校
学校長 石川 和明

研究内容・方法の概要

1 研究主題

主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成
～資質・能力を育む「課題発見・解決学習」の授業づくり～

地域に開かれた教育課程

2 研究主題設定の理由

平成 27 年度から昨年度まで 3 年間、広島県教育委員会『学びの変革』パイロット校として、「主体的・協働的な学びのある授業づくり」をめざして取り組んできた。本校では、育成したい資質・能力を「主体性」「思考力」「自己理解」に重点化し、総合的な学習の時間と国語科を中心に他教科へも広げながら「課題発見・解決学習」の単元開発を行い、児童が目的意識を明確にした上で「学びたい」という意欲をもち、探究し続けることのできる授業づくりに取り組んできた。

本校が育成したい資質・能力の「主体性」は、目的意識を明確にし、「学びたい」という意欲をもち、児童自らが課題を発見し、探究し続けようとする力、「思考力」は、比較・分類・構造化・評価しながら、論理的に考えることや、事象を多面的にみたり、関連付けたりしながら創造的に考える力を定義している。また、「自己理解」については、客観的に自己の学びや学び方を振り返ったり、社会のつながりや学習の楽しさ、自分の成長に気付き、次の学習へ学びをつなげようとしたりする力としている。

資質・能力の育成のためには、主体的・協働的な学びの実現に向けて教科等を横断した学習を充実することや、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して学習を行うことが大切であるという共通認識に立ち、「課題発見・解決学習」を進めた。その結果、児童の学びの場を、視点を明確にして「つなぐ」ことを意図したカリキュラム・デザインを行うことにより、児童が学習意欲をもち続け必然性のある学びを実現することができるようになった。

そして、家庭や地域との連携を図ったことで、保護者や地域からも、各学年で行われる地域学習に対する期待も聞こえ始め、特色のある学習として位置付けられたことが大きな成果として挙げられる。また、教師と児童が評価基準を共有した学習としての「評価」に取り組むことで、学習内容を振り返り、学習を通して付いた力と自らとつなげ自己変容を自覚することができるようになってきていることも成果として挙げられる。

一方、課題としては、学び合いの場においては、相手の考えを理解したり考えを交流したりするだけに留まり、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりすることなどが難しかったことが挙げられる。児童の考えをより深められるような協働的な学びの場の充実を図ることが今後の課題として残った。

昨年度までの研究の課題をふまえ、研究の取組は、引き続き、本校と海田南小学校と海田中学校の 3 校（海田中学校区）で協働して進めていく。研究主題を、「主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童・生徒の育成」とし、「主体的・協働的な学びのある授業づくり」を通して「課題を追究する力（主体性）」「深く考える力（思考力）」「自己を理解する力（自己理解）」の 3 つの資質・能力を育んでいく。

今年度は、昨年度までの取組を継続し、単元開発の手法（「学びのドリームプラン」）を生かし、「課題を追究する力（主体性）」の育成に向けて、これまでに開発した「課題発見・解決学習」の単元の評価、改善を行いながら、児童が目的意識をもって学び続けることができるような授業づくりを行う。また、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、PDCA のマネジメントサイクルを生

かしながら、見通しをもって年間指導計画（カリキュラム）の評価・改善を行い、児童の学びをより一層「つなぐ」ことを意図したカリキュラム・デザインを行うことを通して「社会に開かれた教育課程」の実現に努める。

「深く考える力（思考力）」の育成に向けては、「論理的思考力」（比較，分類，構造化，評価）と「創造的思考力」（多面的にみる，関連付け）の二つに整理し，思考ツールを効果的に活用しながら，協働的な学びのある授業づくりに取り組む。協働的な学びのある授業を行うためには，児童の考えを深めたり広げたりすることができるように，どのような視点で物事を捉え，どのような考え方で思考していくのかという各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせることができるような授業づくりを行う必要がある。そのために，「思考ツール」を効果的に活用しながら，児童の考えを表現し，互いの考えを交流することができるような話し合い活動の充実を図る必要がある。また，必要な知識・技能を教授しながら，それに加えて，発問により児童の思考を深める指導方法の在り方を研究していくことが必要である。

「自己を理解する力（自己理解）」の育成に向けては，引き続き，児童自らが学習内容や学び方を振り返り，自己を省察（モニタリング）する「学習としての『評価』」に取り組み，単元末の「学びのモニタリング」の時間に，学習の評価を行わせる。付けたい力が付いたかどうかだけでなく，過去の学習内容と関係付け一般化したり，学習内容と自らとつなげ自己変容を自覚したりすることができるような振り返りの場として充実させる。そのために，単元全体を通して1時間の授業のゴールを見通し，どんな力を付けたらよいか，教師と児童が評価基準の共有を継続して行う。学びを熟考する力を付けさせるために，文字言語で表現し，児童自らが，じっくりと学びを見つめ，学びの成果を自らものにできるような学習活動の振り返りを積み重ねていきたい。

児童の「主体的な学び」を促すための土台となる「基礎・基本」の確実な定着を図るためには，これまで取り組んできた学習基盤としての学習環境づくりと集団づくり，支援の必要な児童を視野に入れた授業のユニバーサルデザイン化，読書活動の推進，スキルタイム（のびっこタイム）の充実等に学校全体で共通意識をもち，進めていく。

3 研究仮説

協働的な思考の場を充実させた「課題発見・解決学習」の授業づくりを行えば，主体的・協働的に学び自分の考えを深めることのできる児童が育成されるであろう。

4 研究の内容

（1）授業づくり

（ア）○課題を追究する力を育成する「課題発見・解決学習」の授業

・単元構成の工夫

〔必然性のある学習内容，本質的な問いの解決をめざした課題設定〕

<各教科>

・教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習過程

〔言語活動の充実〕

<総合的な学習の時間・生活科>

・育成したい資質や能力を明確にした探究的な単元構成

〔地域・社会への貢献を視野に入れた課題設定の工夫，各教科との関連〕

○マネジメントサイクルに基づくカリキュラム（年間指導計画）の評価・改善

(イ) ○思考の場の工夫

思考の視点の明確化，児童との共有

論理的に考える力…「比べる（比較）」「分ける（分類）」
「組み立てる・まとめる（構造化）」「評価する」など
創造的に考える力…「いろいろな見方（多面的にみる）」「つなげる（関連付け）」など

- 思考を深め，可視化・操作化する「思考ツール」の効果的な活用
 - ・考えを表現し，互いの考えを交流することができるような話し合い活動の充実
- 知識・技能をつないだり，活用・発揮できたりするような発問の工夫

(ウ) 学習としての「評価」の充実

- 児童が学びを省察（モニタリング）する場の工夫
 - ・「学びのモニタリング」の視点の明確化（学習内容・自己変容）
- 教師と児童の評価力の向上
 - ・ゴールの見通しを共有するための評価基準の共有
 - ・成果物等を通じた評価力の向上

(2) 環境づくり

(ア) 児童の意欲を育む学習基盤づくり

- ・共感的・協働的な学級集団づくり
- ・学習環境づくり
- ・授業のユニバーサルデザイン化

(イ) 日常的な取組

- ・読書活動の充実（読書タイム，読み聞かせ）
- ・スキルタイム（のびっこタイム）の充実

5 研究の方法

(1) 理論研修（研究主題に関わる共通認識）

- ・資質・能力の定義の共有
- ・授業づくりのポイント

(2) 授業研究（一人一回以上の授業研究を実施）

○授業実践を参観し，視点に沿って授業分析を行い検証する。

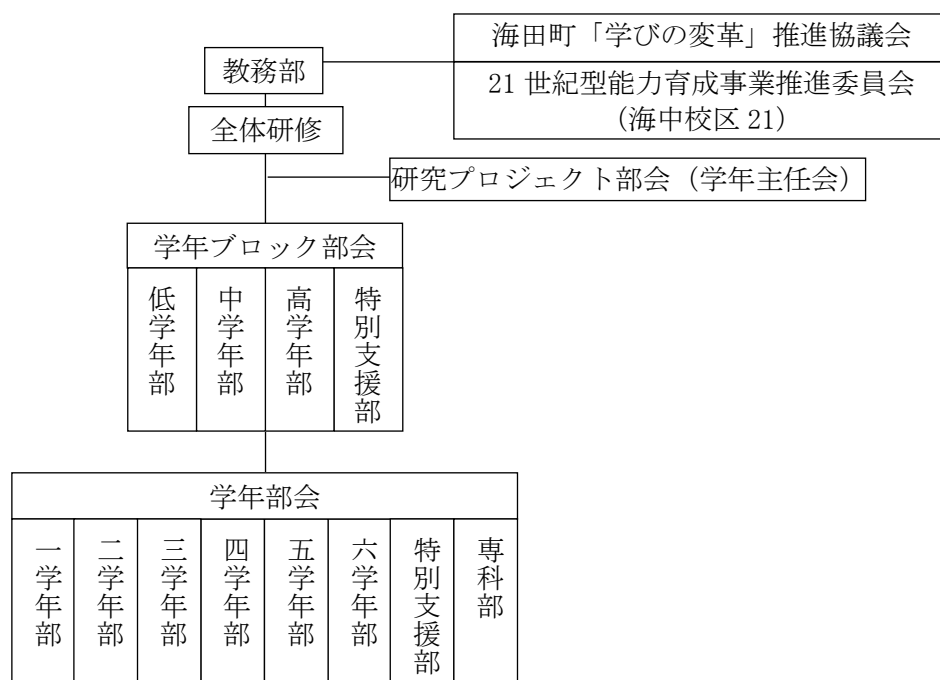
- ・児童の変容を確かめ，有効な手立てについて検証するための協働的な研究授業
- ・前回までの研究授業の課題を改善し，提案する研究授業
 - ア 低・中・高学年ブロックで，単元構成を行う。（「学びのドリームプラン」の作成）
 - イ 学年部会で「学びのドリームプラン」及び指導案を作成，検討，修正をする。
 - ウ 学年ブロックで「学びのドリームプラン」及び指導案を検討，修正をする。
 - エ 学年で事前授業を行い，指導案の修正をする。
 - オ 全体授業研修を行う。
- ・教科，総合的な学習の時間の授業研究を行う。
- ・「学びのドリームプラン」は，起案の手続きをして，決裁を受けてから本単元の学習に入ることとする。
- ・全体授業指導案は，起案の手続きをして学年部で印刷，配布をする。講師の先生にも2週間前には送付する。

- ・全体授業指導案は、3日前までに全職員に配布し、参観者は事前に必ず熟読する。
- ・学習終了後には、協議会及び指導・助言の内容を反映した修正指導案を速やかに作成し、起案する。

6 研究成果の評価・検証方法

- (1) 授業研究の検証（成果物，授業記録の研修）
- (2) 学力調査と調査問題検証
- (3) 児童・教職員の意識調査の実施と分析
- (4) 保護者の意識調査の実施と分析

7 研究の組織



※専科部は、少人数指導・音楽・理科で構成し、日本語教室担当は特別支援部に入る。

※専科部の学年ブロック部会は、実施学年の該当するブロックで検討を行う。

※総合的な学習の時間については、専科・日本語教室担当は各学年に入り研究に参加する。

※全体研修においては、授業記録（写真等）及び印刷・協議会会場準備などの役割分担を行う。

8 具体的な研修計画（予定）

月	日	曜	研究内容
5			校内研修 研究主題 推進方針 研修計画について 本年度の方向性について
5	30	水	校内授業研究① (5年1組 国語科)
6	14	木	校内授業研究② (2年3組 国語科) (6年2組 体育科)
6	22	金	校内授業研究③ (3年2組 理科)
7	4	水	校内授業研究④ (なかよし 体育科)

月	日	曜	研究内容
7	11	水	校内授業研究⑤ (専科 音楽科) (1年1組 国語科)
7	31	火	校内研修・海中校区 21 研究公開 DP の検討
9	12	水	校内授業研究⑥ (1年2組 図画工作科)
9	19	水	校内授業研究⑦ (6年3組 総合的な学習の時間) (2年2組 生活科)
10	10	水	海田中学校区研究公開 全体授業研究
10	24	水	校内授業研究⑧ (3年1組 総合的な学習の時間) (なかよし 生活単元学習・自立活動)
11	29	木	校内授業研究⑨ (4年2組 算数科) (専科 算数科)
12	4	火	校内授業研究⑩ (1年4組 生活科) (専科 理科)
1	18	金	校内授業研究⑪・海中校区 21 (3年3組 国語科) 5校時
1	28	月	校内授業研究⑫ (5年3組 総合的な学習の時間) (6年1組 国語科)
2	5	火	校内授業研究⑬ (2年1組 算数科)
2	21	木	校内授業研究⑭ (1年3組 体育科) (日本語学級)

※一人1回以上研究授業，授業提案を行う。

※「海中校区 2 1」の授業研究には，全員1回以上参加する。